

## 2016 年度 小委員会活動成果報告

(2017 年 2 月 3 日作成)

小委員会名	温熱感小委員会	主 査 名：齋藤 輝幸 就任年月：2016 年 11 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (熱環境運営委員会)	委員長名：羽山 広文 主 査 名：尾崎 明仁
設 置 期 間	2015 年 4 月 ～ 2017 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの温熱感・快適性研究を踏まえた本領域の今後の発展の促進と展開の模索</li> <li>・最新研究のレビュー、シンポジウムの企画・開催と適切な情報発信</li> <li>・学術規準の改定ならびに策定に関わる検討</li> </ul>	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無	
	主査：齋藤輝幸 (名古屋大学) 幹事：高田暁 (神戸大学)、山岸明浩 (信州大学) 委員：梶井宏修 (近畿大学)、久野 覚 (名古屋大学)、田辺新一 (早稲田大学)、土川忠浩 (兵庫県立大学)、都築和代 (豊橋技術科学大学)、松原齋樹 (京都府立大学)、三上功生 (日本大学)、宮本征一 (摂南大学)、室恵子 (足利工業大学)	
設置 WG (WG 名：目的)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・温熱環境学術規準WG：心理・生理反応測定法、室内温熱環境設計 (評価) 法に関する学術規準の出版に向けた作業を行う。</li> <li>・現状分析情報発信WG：我が国における温熱環境研究の最近の動向調査および評価と、将来の研究方向性の検討を行う。</li> <li>・温熱的快適域検討WG：温熱的快適域に関する基礎資料を整理するとともに、まとめて、現状の快適域を検討する。</li> </ul>	
2016 年度予算	160,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス：

項 目	自己評価
委員会開催数	1 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)	1. これまでの温熱感・快適性研究および最近の研究動向を踏まえ、本領域の今後の発展の促進と展開について検討することができた。 2. 学術規準の改定ならびに策定に関わる検討を行った。
委員会活動の問題点 ・課題	1. 今後の活動に向けて有意義な議論を行うことはできたものの、年度途中の主査交代などにより委員会開催は1回にとどまった。

## 2016 年度 小委員会活動 自己評価

### (最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A	B	C	D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>刊行やシンポジウムの開催など、明示的な成果をあげることはできなかったが、温熱感小委員会における検討に基づき、本年度末に合同 WG の開催を予定しており、今後の活動活性化を図ることが出来ると思われる。</p>			

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価 (シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など) に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。